

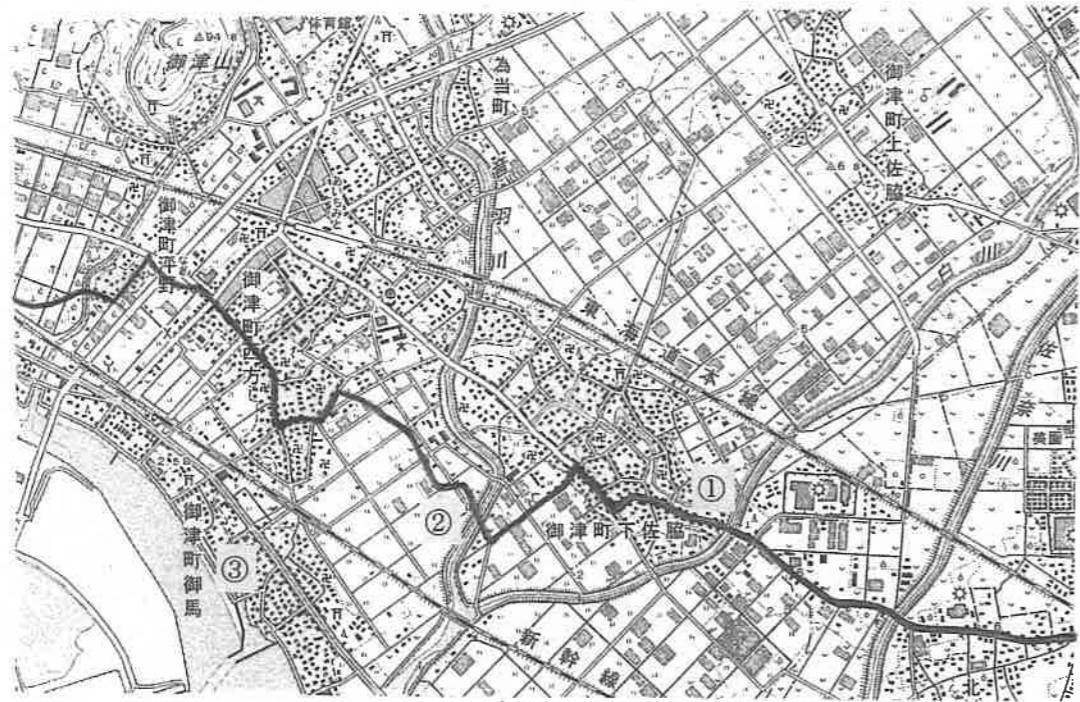
平坂街道をたどる

蒲郡市博物館

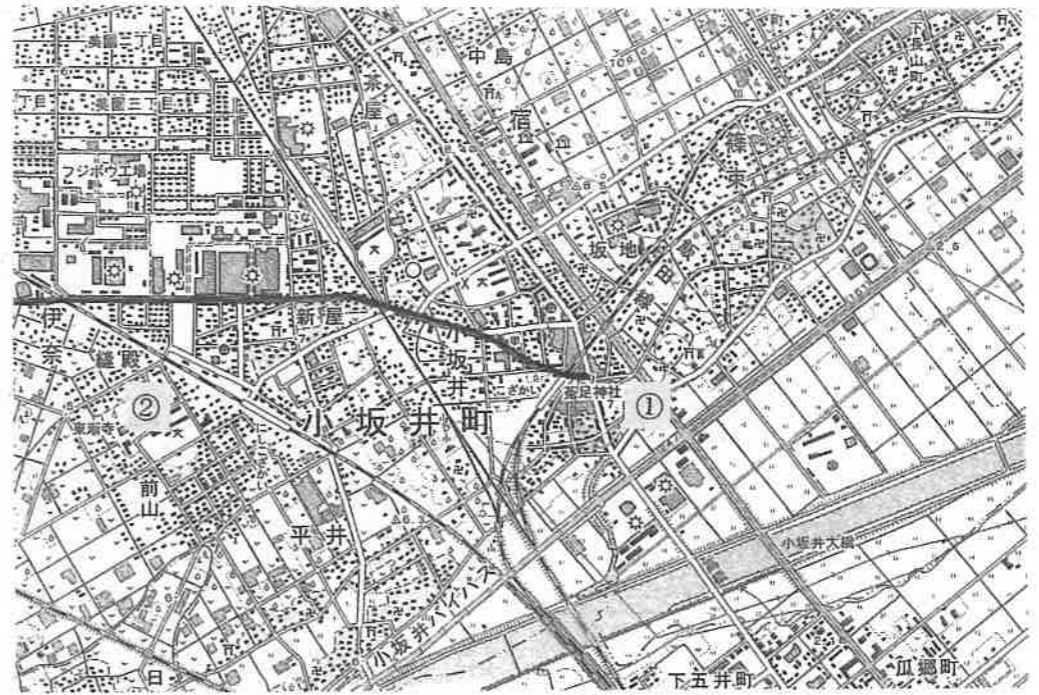
本冊子は、企画展「平坂街道をたどる」(会期：平成三十年三月二日～三月二十五日、会場：蒲郡市博物館)の解説用冊子です。

愛知県公文書館が所蔵する明治十七年頃作成の地籍図に基づき、当時の道筋を現在の地図上に図示しました。ただし、区画整理等が行われた箇所につきましては、一部推定を含むところがございます。明治二十六年に刊行された大日本帝国陸地測量部作成の二万分の一地形図や、昭和三十～四十年代発行の住宅地図等も適宜参照しました。

また、調査にあたっては、中川三平氏(幸田町在住)より多くの事柄についてご教示いただきました。『愛知県歴史の道調査報告書9 平坂街道』(愛知県教育委員会編、一九九三年)もあわせて参考としました。



国土地理院発行 2万5000分の1地形図より



国土地理院発行 2万5000分の1地形図より

平坂街道をたどる①

【豊川市小坂井町〜豊川市伊奈町】

東海道の吉田宿と御油宿の間、現在の豊川市小坂井町の地で、平坂街道は東海道から分かれる。分岐点は、JR飯田線小坂井駅の北西約100mの地点、旧東海道から西に入る小道がそれである。現在の分岐点（小坂井郵便局東、マルス菓子店前の交差点）は、明治四十年の新道整備以後のものである。

北西に進み、まもなく小坂井駅の北に至る。線路を越えたあたりは区画整理が行われているので、旧街道をたどることはできない。安田米穀店付近で県道三八四号線に合流し、以後しばらくは同県道に沿って西に進む。名鉄名古屋本線を越えると、右手には日本トレクス、雪印メグミルクなどの大工場がみえる。やがてJR東海道本線を「平坂街道踏切」で越える。

【名所・旧跡など】

① 菟足神社

穂の国（東三河）の国造である菟上足尼命（うなかみのすくねのみこと）を祭神として祀る。白鳳十五年（六八六）の創立と伝えられる。戦国・近世の貴重な文化財を多数所蔵。神社西参道の鳥居は、元禄四年（一六九一）に吉田藩主小笠原長重が寄進したもの。四月に行われる「風祭り」も有名。

② 東漸寺

延命地藏尊を本尊とする曹洞宗寺院。伊奈城主本多家の菩提寺であり、境内には本多家五代の墓所が整備されている。近世、本多家は参勤交代時に赤坂宿から家臣を遣わして代参させるなど同寺を厚く尊崇した。

平坂街道をたどる②

【豊川市伊奈町〜豊川市御津町平野】

県道三八四号線をさらに西へ進み、佐奈川にかかる柳橋を渡る。国道二三号線バイパスの高架をくぐる。豊川市消防署南分署を左に見つつさらに行くくと下佐脇集落に入る。コミュニティ消防センターと火の見やぐらがある交差点を左折し南西に向かう。音羽川のかつての渡河地点は、今の御所橋の南約100mのところであった。

区画整理が行われた水田の中を北西に進み、浄願寺付近に至り御馬集落に入る。集落内の信号交差点を右折して北上、入覚寺、今泉医院、敬圓寺の前を通って西方地区へ。北西に進んで、佐野電気店のところで左の小道に入る。この小道は往時の街道の名残である。その先は東三河環状線の整備等でたどることができない。堀合の信号南で東三河環状線を横切り平野集落に至る。小道を通って御津川にかかる紫橋を渡り西へ進む。このあたりも区画整理でかつての道は姿を消したが、街道は平野本郷共同墓地の南を通っていた。

【名所・旧跡など】

① 佐脇刀祢太夫（とねだゆう）の墓

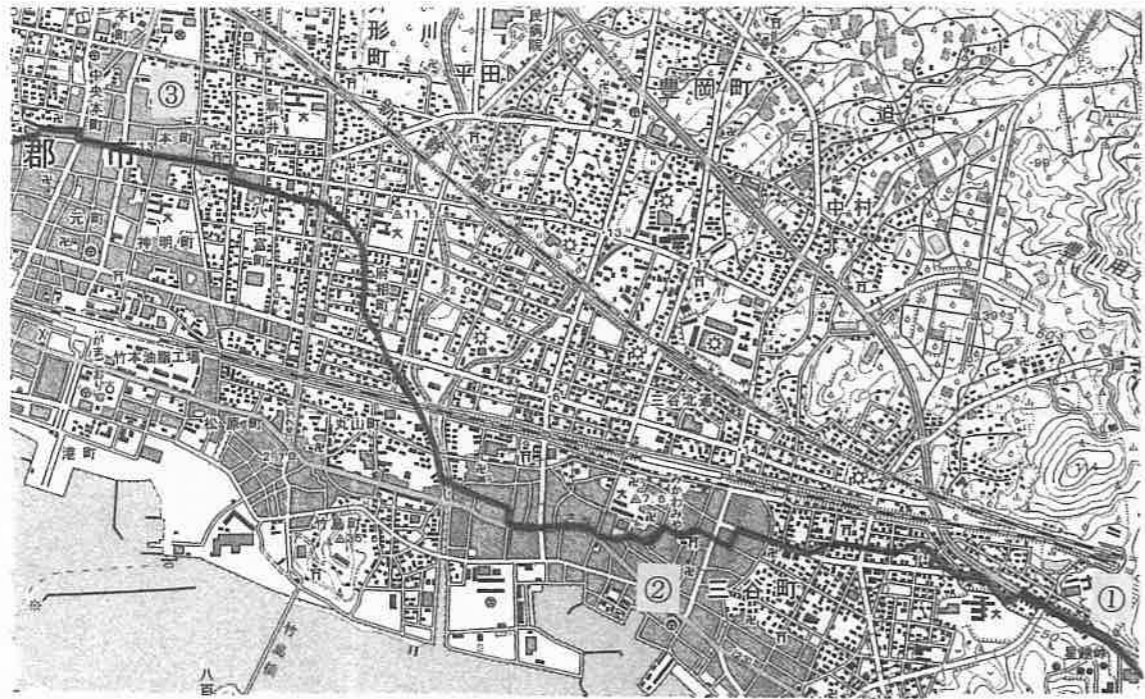
佐脇城最後の城主であった佐脇刀祢太夫の墓。刀祢太夫は奥平九八郎の与力として長篠の合戦に参加し討死した人物。

② 持統上皇行在所（あんざいしよ）伝承地

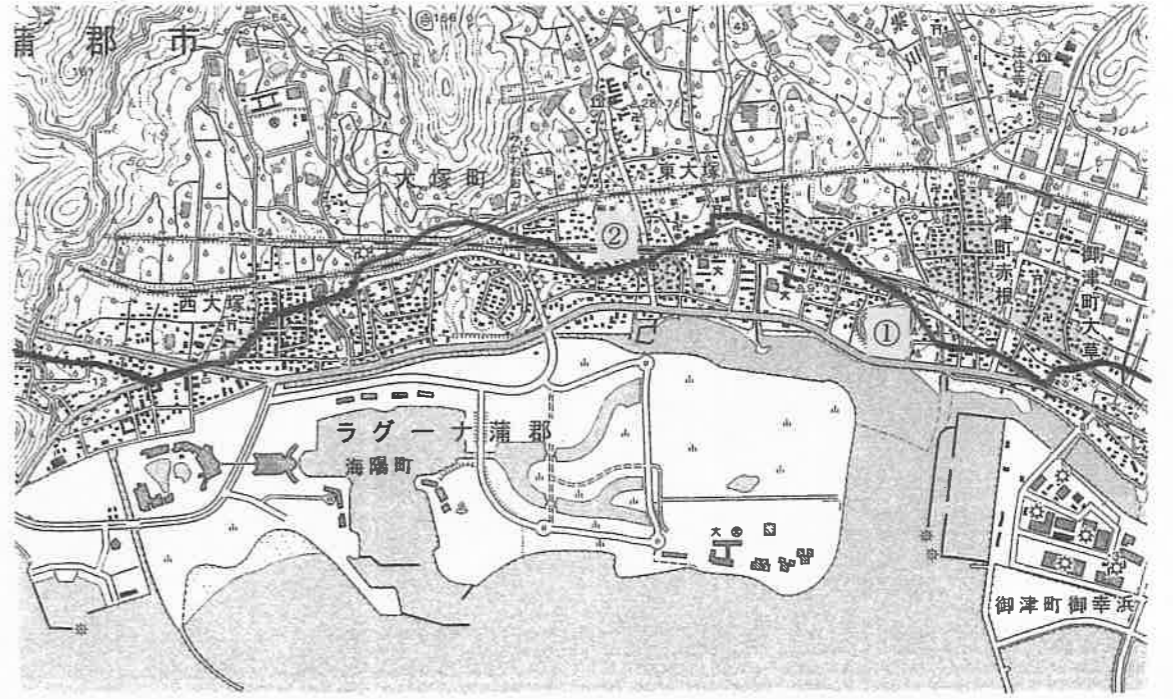
大宝二年（七〇二）、上皇が三河を行幸した際の行在所がこの付近にあつたと伝えられる。

③ 御馬湊（おんまみなと）

三河五箇湊のひとつとして知られる。東三河の年貢米を江戸へ送る積み出し港として栄え、周辺には倉庫や廻船問屋が建ち並んでいた。



国土地理院発行 2万5000分の1地形図より



国土地理院発行 2万5000分の1地形図より

平坂街道をたどる③

【豊川市御津町大草・蒲郡市大塚町】

川を越え大草地区に入る。南西に進み、東海道本線をくぐる。文政二年（一八一九）建立の常夜灯わきを通り、まんが館前で右折、Y字路を右に行く。広い通りを渡ると、またY字路に差しかかる。左の小道を進んで紫川を丸山橋で渡ると蒲郡市域に入る。

北西に進むと路線バスの道「いわゆる「大塚の旧道」にあたる。大塚地区ではこの旧道が平坂街道であるが、若干、明治期とルートを変更する箇所がある。丹下川にかかる丹下橋は現在よりも少し北にあった。ヘアサロン中野の裏を通る道がかつての街道で、素盞鳴神社の境内を横ぎって、消防倉庫前で左折、朝日屋のところで旧道に合流する。また西へ進み、新幹線をくぐり、丸差川を渡ってしばらく進む。

街道は、大塚駅前信号東百五十m程のところにある小道を通って北西に進むが、この先のルートは現在失われている。このあたりは今の旧道よりも北を本来の街道は通っていた。おそらく東海道本線を通す際に現在のように道筋が変えられたのだろう。JR東海変電所東のミカン畑の中に往時の雰囲気伝える道がわずかに存在する。

変電所南のあたりでまた旧道と合流する。神明社の横を通り、十能交差点を渡ってしばらく進んだところに星越峠の登り口がある。星越峠は平坂街道のうち最大の難所であった。

【名所・旧跡など】

- ①丸山古墳
- 五世紀末の造営と推定される前方後円墳。円筒埴輪片が出土した。
- ②中島城跡
- 大塚の地を領した岩瀬氏の居城。現在は滅失。跡地に常夜灯が建つ。

平坂街道をたどる④

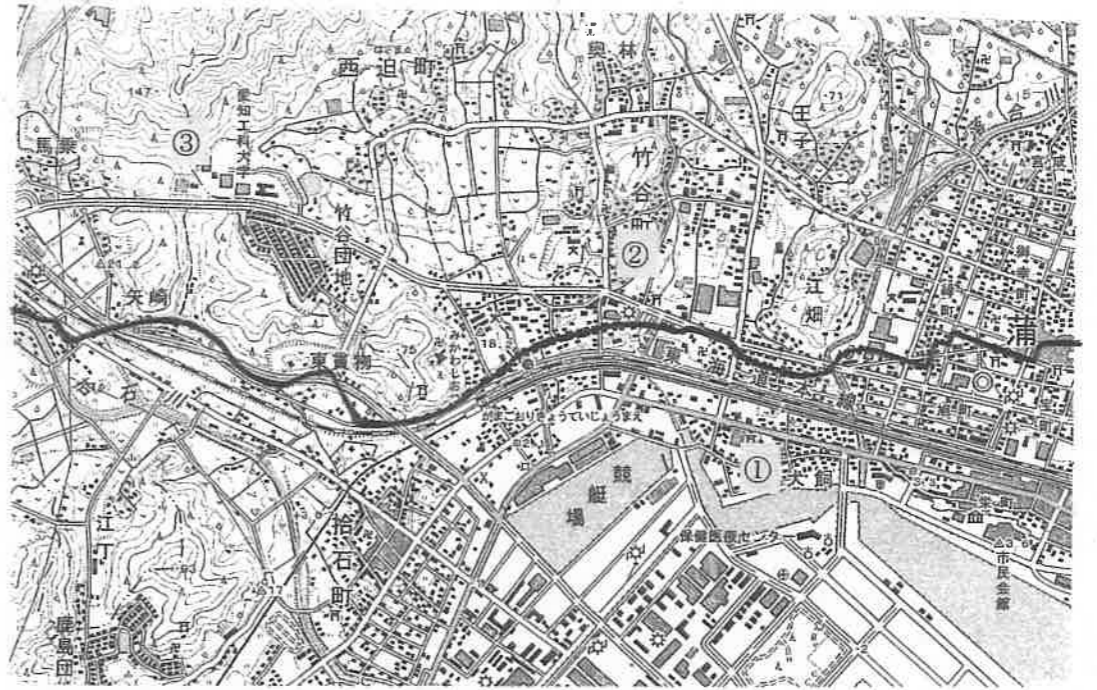
【蒲郡市三谷町・蒲郡市中央本町】

星越峠を越えると三谷町である。星越歩道橋の南付近にかつての道筋が一部残っている。三谷町東三丁目のあたりは区画整理のため正確にルートをたどることができない。天白神社の南を通って三久化学北の道路を進んでいく。四舗の信号手前で左折し南へ、突き当りを右へ行く。広い道路を渡り、八剣神社の北、光昌寺・三谷小の南を通る。八舗の信号北西に往時の道しるべが今も立っている。水神の信号を越え、喫茶店のところまで右折、ひとつ北の小道に入る。

現在の凱旋橋よりもやや北の地点で西田川を渡って北へ。東海道本線「第一平坂街道架道橋」をくぐる。府相町あたりも区画整理により街道の姿は確認できないところが多い。北西に進み岡崎信用金庫府相支店、モンラパン付近を通って小道に入る。突き当りを右に曲がって秋葉神社前へ、西に進んで銀座通りへ。中央本町の信号で右折、すぐに左折して薬証寺前に至る。

【名所・旧跡など】

- ①星越峠の碑
- 星越峠頂上付近。戦国時代に連歌師宗牧が通過し「立帰り又も逢はまくほしこえや かすかすあかぬ老のさか哉」の歌を詠んだ。
- ②三谷祭
- 八剣・若宮神社の例祭。毎年十月に行われる。元禄年間以来三百年余の伝統を誇る。山車が海を渡る「懐中渡御」が有名。
- ③蒲形陣屋跡
- 蒲郡高校の南約二百m。近世、蒲郡の中心部を治めていた西郡松平家の陣屋跡。現在も土塁の一部が残る。



国土地理院発行 2万5000分の1地形図より

平坂街道をたどる⑤

【蒲郡市中央本町→額田郡幸田町大字深溝】

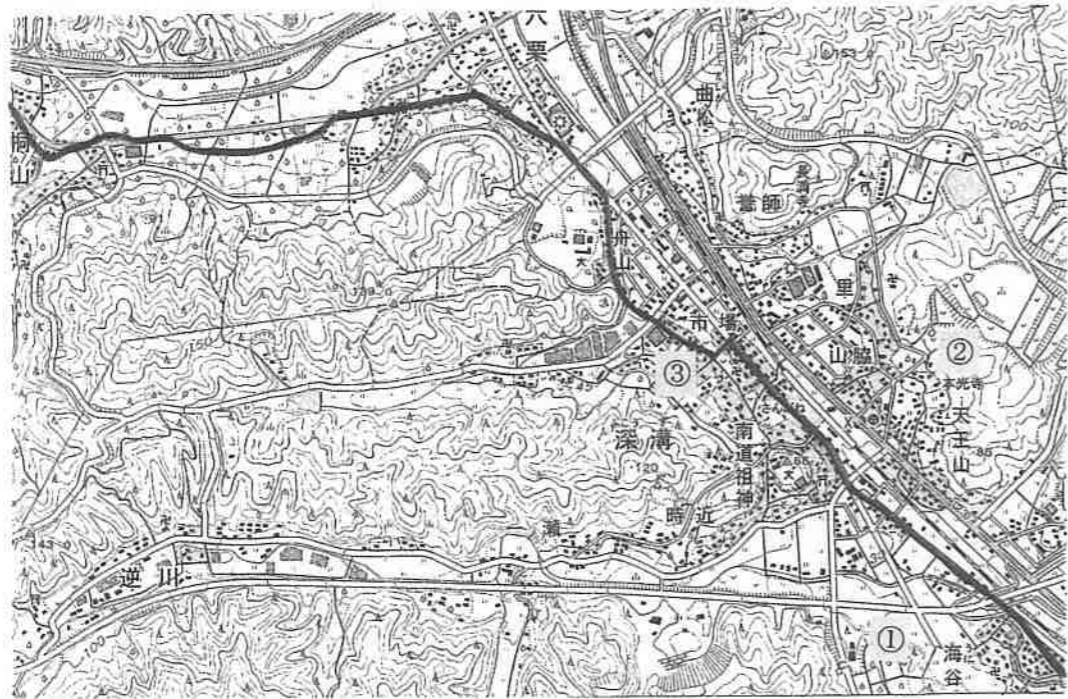
薬証寺前から小道を通って南西に進む。広い通りに突き当たったところで右折、御幸南信号手前の小道を左折、また右折し、中部電力の北を過ぎ、広い道路を渡り、松山ふとん店の南を通って八柱神社前へ。南西に進み、途中体育館の敷地を通り、警察署前で落合川を渡る。

川を過ぎたところで南西に入るが、このあたりは家並みが変わったため正確にたどることができない。現在の市役所通りよりひとつ南の小道を西へ進む。八幡神社の南を通過して信光寺東に至る。信光寺の北をまわって、カーマと吉野家の間を通り過ぎ、尺地川を渡る。しばらく進むと竹谷公民館がある。公民館前には常夜灯が今も残っている。塩津小・浄夢院の南を過ぎ、眺海橋をくぐる。

この先しばらくは蒲郡市と幸田町の境界が街道のルートである。拾石町の晩野信号付近は国道二四八号線の整備により従来の道を追うことができない。深溝矢崎の信号やや東の地点で国道から北にそれて竹やぶの中を通る未舗装の道に入る。ここより先三百mほどは、往時の平坂街道のおもかげを現在に伝える貴重な箇所である。高須製瓦の南を通り、深溝日向山信号の西で東海道本線を渡る。

【名所・旧跡など】

- ① 大飼湊
三河五箇湊のひとつ。幼少時の家康が人質としてここから船出した。
- ② 竹谷城跡
竹谷松平家の居城。塩津中東の小高い丘。関東移封により廃城となった。
- ③ 馬乗古墳群
大学建設にともない発掘調査を実施。二号墳は移築され蒲郡市博物館へ。



国土地理院発行 2万5000分の1地形図より

平坂街道をたどる⑥

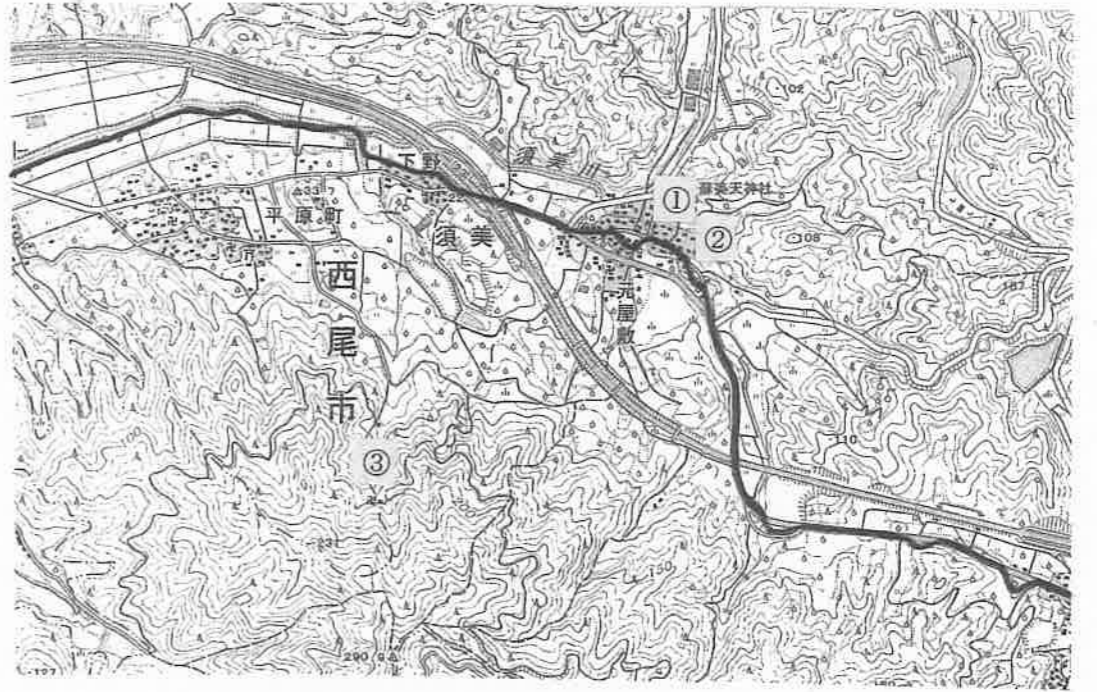
【額田郡幸田町大字深溝→額田郡幸田町大字桐山】

県道三ヶ根停車場拾石線のひとつ西の道を拾石川にそって北西に進む。三ヶ根高架橋以西、深溝宗広の信号までは、おおむね前述の県道が旧街道と重なる。深溝宗広信号から先は、県道蒲郡碧南線を通り、三ヶ根駅前を過ぎて、深溝大踏切西で左折する。小字「札ノ辻」が示すように近世ここは村の高札場であった。その後、すぐに右折、向野の墓所に至る。道は北へ伸び、幸田南部中学校の東を通って、再び県道蒲郡碧南線に合流する。

上六栗集落に入る。上六栗金ヶ崎の信号で浜街道と平坂街道に分かれる。左に進んで上六栗深田の信号のすぐ先、大間池の西で小道に入る。これより先三百メートル程は当時を思い起こさせる細い道が残っている。桐山の信号を過ぎ、広田川を小石川橋で渡る。渡河地点は現在よりも若干南であった。

【名所・旧跡など】

- ① 東光寺遺跡
縄文時代から近世にかけての遺跡群。数次にわたる発掘調査により、縄文時代の土器棺墓や弥生時代の住居跡などが発見された。
- ② 本光寺
深溝松平家の菩提寺。享禄元年(一五二八)初代当主松平忠定の建立。当初は向野の地に建てられていた。境内には歴代当主が眠る「島原藩主深溝松平家墓所」がある。六月のあじさい祭りでも有名。
- ③ 向野の墓所
関東移封によって深溝松平家が深溝の地を離れるまで用いられた。かつては二本の松の大木「御首駿の松」があった。



国土地理院発行 2万5000分の1地形図より

平坂街道をたどる⑦

【額田郡幸田町大字桐山・西尾市平原町】

国道二三号線を西に進む。ながや農園の南で本来の街道は若干南に屈曲していた。道の駅「筆柿の里」に至り須美地区に入る。山あいを通るこのあたりは、前述の星越峠に続く平坂街道第二の難所というべきところであった。

道の駅付近で道はカーブを描いて北上する。二十三号バイパスの高架をくぐり、国道から右に分岐、直進して須美川を渡り須美の集落に入る。蘇美天神社参道入り口前を通り、元屋敷橋で再び須美川を渡ってすぐに左折、須美公民館の裏手を通って須美の信号へ。須美インターの高架をくぐり、県道蒲郡碧南線のひとつ北の小道へ。須美排水処理場の西を右折し、須美川堤防に至る。

西尾市平原町に入る。平原集落の中は通らず、須美川左岸の堤防上を通過して西へと進み、やがて城山橋に至る。

【名所・旧跡など】

①蘇美天神社

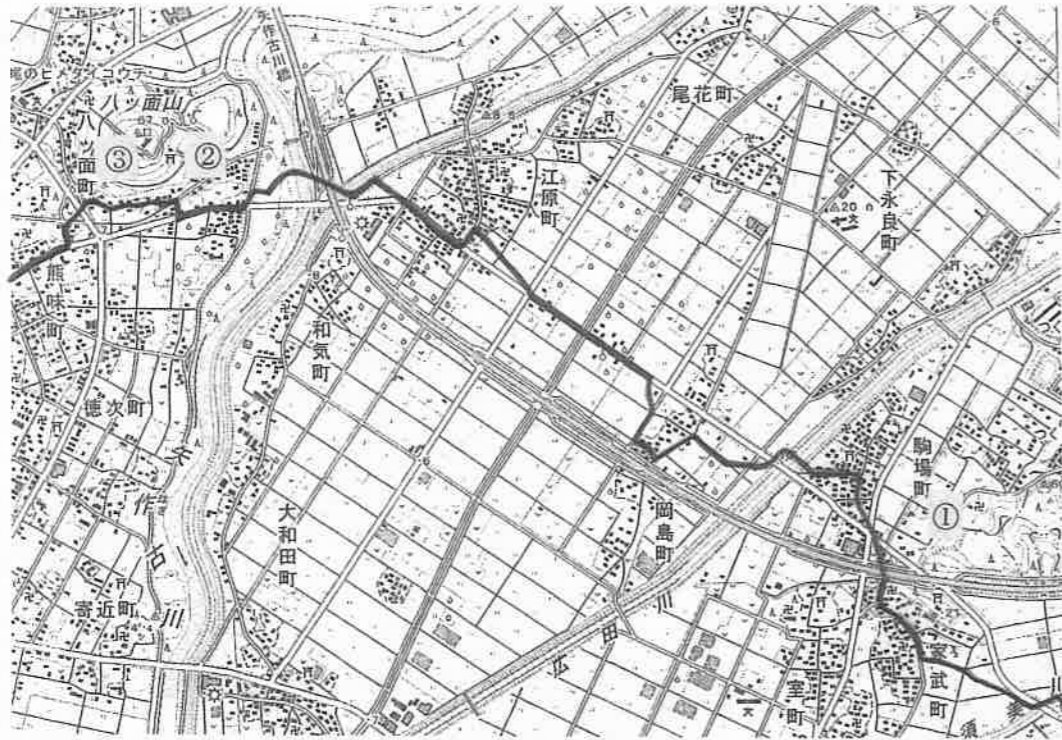
祭神は建蘇美命・建速須佐之男命。社伝によれば、建蘇美命は日本武尊の東征に従って功績があり、各地を平定した後は、蘇美の地に移ってあたりを開拓したという。中世、あたり一帯には、「蘇美の御厨（みくりや）」「蘇美御園」が置かれ、伊勢神宮の神領となっていた。

②如意寺

浄土宗寺院。幸田町指定文化財の阿弥陀如来座像を所蔵する。

③平原の滝

九世紀後半、清和天皇の時代に慈覚大師が発見。薬師の滝とも。滝の水を飲めば長寿に、うたれば難病を治す利益があるという。



国土地理院発行 2万5000分の1地形図より

平坂街道をたどる⑧

【西尾市家武町・西尾市熊味町】

須美川を渡り家武町へ。県道蒲郡碧南線から左にそれて家武集落へ入る。平伍屋の北を通り圓満寺前へ。付近に道路元標・常夜灯が残る。北へ行き、浄願寺の西を通過してさらに進む。二三号線をくぐり駒場町へ。本来のルートは駒場町信号から北西へ、加藤医院の敷地内を通過して集落内に入った。八幡社東の丁字路に道しるべが残る。八幡社南を通過して駒場橋へ。橋は今よりも若干北にあった。

広田川を渡った後、左にそれて岡島集落へ。このあたりから江原町にかけては区画整理のため旧街道を正確にたどれない箇所が多い。道は岡島町地内でコの字状に曲がる。県道蒲郡碧南線に出て北西へ、江原町の交差点あたりからやや北にそれて江原の集落内に入っていく。

街道は福浄寺の前へ出て左折、南に進み、主要地方道岡崎碧南線にあたって右折する。江原町御浦の信号を過ぎ、安藤川・矢作古川を渡る。八ツ面山の南を通り、八ツ面住宅南のバス停西の小道を北に曲がり、またすぐに左折、西へ進む。県道西尾環状線を越え、住宅の間を抜けて南に進み、スギ薬局東の小道を通過してふたたび岡崎碧南線へ合流、右へ曲がり西尾書店の前を通過する。

【名所・旧跡など】

①東向寺

浄土宗西山深草派寺院。今川義元的首塚と伝えられる石塔がある。

②久麻久神社

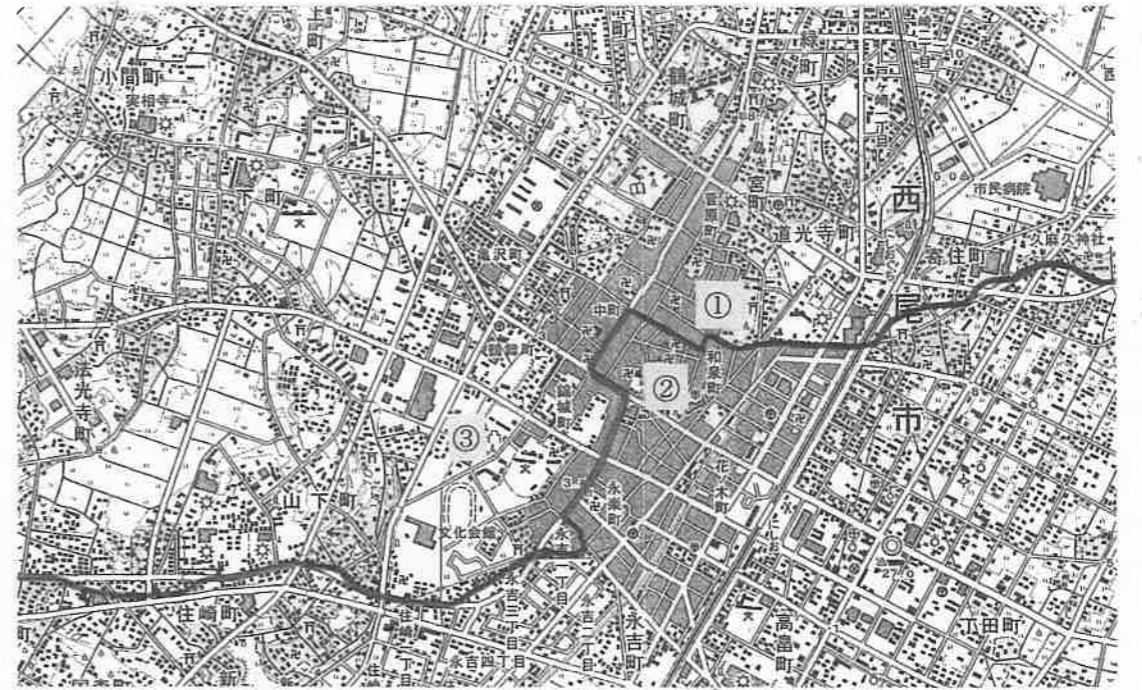
本殿は大永七年（二五二七）の建造。昭和四四年に解体修理が行われた。

③八ツ面山雲母坑跡

明治期まで雲母が採掘されていた。若干現在も見学可能な箇所が残る。



国土地理院発行 2万5000分の1地形図より



国土地理院発行 2万5000分の1地形図より

平坂街道をたどる⑨

【西尾市熊味町〜西尾市羽塚町】

熊味町東の交差点で小道に入り、熊子観音の南を通過、道なりに進む。熊味西のバス停あたりは、熊味町と寄住町との境界が旧街道のルートである。

クリーニングイシハラ・中央児童遊園の北を通り、かまどやのところで広い道に合流、右折して名鉄の高架をくぐる。西へ進み、伊文神社前へ。ここはかつて西尾城の天王門があったところである。尾沢齒科を過ぎて左折、すぐ右折し、北西へ進む。正林堂茶店を過ぎて信号を左折、縁心寺・聖運寺のわきを通り中善樂器の信号で左折、康全寺前の信号を右折、本町通りを進む。須田町と葵町の堺にある小道に左折して入る。住宅地の中に須田門跡の石碑が残る。

石碑を過ぎてすぐを右折、南西に進む。鈴木鉄工の南を通って、泡原橋で二の沢川を渡る。西へ進み、山下町・住崎の信号を過ぎ、外山製作所の南で左にされる小道に入る。これより後、しばらくは住崎町と新在家町の堺が旧街道の道筋である。羽塚町に入ってまもなく、再び広い道に合流する。

【名所・旧跡など】

- ①伊文神社
西尾の産土の神として、歴代城主はじめ人々の崇敬を集めた。境内には、岩瀬弥助奉納の石灯籠や義倉蔵がある。
- ②康全寺
応永五年（一三九八）建立。家康から一字を授かり康全寺に。曹洞宗。
- ③西尾城
天守台・鎗石門（ちゅうじやくもん）・丑寅櫓などが復元されている。

平坂街道をたどる⑩

【西尾市羽塚町〜西尾市平坂町】

西へ進む。清水鉄工の南を過ぎ、信号を渡る。しばらくすると名鉄三河線の廃線跡を通り過ぎる。ざる久商店前のY字路を右に進み、平坂鑄工の南を通ってさらに西へ行く。

住宅街を進み、中村精肉店を過ぎ、次の交差点を左折、南西に行く。やがて犬塚衣料店付近に出る。衣料店の南の小道に入ってまた南へ。道なりに進むと宮モ米店、そして街道の終点平坂入江に至る。入江の口にある平坂樋門は昭和三十八年の建造。明治十七年地籍図によると入江に面した地には当時「官倉敷地」があった。

【名所・旧跡など】

- ①平坂湊
三河五箇湊のひとつ。西三河諸藩の年貢米積み出し港。矢作川の水運と江戸海運を結ぶ地であり、多くの物資が集積、繁栄した。明和四年（一七七七）の差出帳によれば、七百〜九百石積みの江戸廻船が九艘、三河湾・伊勢湾を航行する八十石積みの船が三艘、矢作川舟運用の川舟十艘があった。明治二十五年設立の参栄社は、平坂を拠点として海陸運送業・貸倉庫業を手広く営んだ。
- ②無量寿寺
真宗大谷派寺院。三河五ヶ寺のひとつ。もと羽塚にあったが、弘治元年（一五五五）に平坂の地に移った。
- ③矢作川
慶長十年（一六〇五）に新しい川筋を開削、現在の流路となった。川舟による物資の往来がさかんであったが、近代以降、堰堤の築造による水量の減少、鉄道との競合などによって次第に衰退した。

平坂街道の歴史・ルートについて

平坂街道は、豊川市小坂井の地で東海道から分岐し、御馬、大塚、蒲郡、塩津、深溝、桐山、須美、駒場、江原、西尾城下、羽塚などを通って、平坂に至る道です。三河南部を東西に結ぶ主要道として、かつては多くの人や物が行き交いました。

平坂街道は、明治九年六月八日の「太政官達第六十号」に基づき、明治九十年頃に愛知県から内務省へ申請された県道です。明治十二年調査の愛知県内「国道県道一覽表」には、三等の県道、街道の道のりは「九里二八町四五〇尺」とあります。

ところで、従来、御馬・大塚、西郡(蒲郡)、竹谷と宝飯郡南部を東から西へ移動し、西尾へ至るルートについては、深溝より先は、逆川・宮迫を通する道(旧吉良町を通る道)が一般的であったと考えられ、近世作成の三河国絵図等でもその道筋を明示したものが多数あります。しかるに、平坂街道は、深溝から上六栗・桐山・須美・八ツ面を経由するルートを探ります。これは、逆川・宮迫間の勾配が、桐山・須美地区に比して急であったため、それを避けたことによるものではないでしょうか。

旧街道のおもかげが残る箇所について

道路拡張や区画整理などにより、多くの場所において街道の様子は一変してしまいました。しかしながら、旧道の様子を今に伝えるところ—あまり整備がなされておらず、当時のおもかげが感じられる箇所—がわずかに存在します。本文中でも言及しましたが、そのうち特に趣きのあるところを紹介すると次のとおりです。



No. 1 幸田町大字深溝字矢崎付近
旧漫画喫茶井戸友の裏手。うっそうと
茂る竹やぶの中を通る (p 6 参照)。



No. 2 幸田町大字上六栗・桐山
道の左右に柿の木。国道23号線に平
行してはしる細い道 (p 7 参照)。



No. 3 蒲郡市大塚町字狐狭間付近
東海道本線と新幹線にはさまれたご
くせまいエリアに残る (p 4 参照)。

平坂街道をたどる

蒲郡市博物館編

平成30年3月1日発行